



エコアクション21
認証・登録番号0003296

環境活動レポート

(対象期間: 2013年3月1日～2014年2月28日)

1. 事業活動の概要
2. 環境基本理念 及び 環境方針
3. 2014年度 エコアクション21実施体制・認証範囲
4. 2013年度環境目標・活動計画および実績・評価
5. 主要な環境目標の実績
6. 主な環境活動の紹介
7. 教育・訓練活動
8. 環境関連法規等の遵守状況、違反・訴訟等の有無
9. 代表者による全体評価と見直しの結果

(2009年度版ガイドラインによる環境活動レポート記載事項)

2014

高島屋スペースクリエイツの森の住人シリーズ ③ カメムシ
真冬でも落葉の陰でたくましく生きていました。(2014年1月撮影)



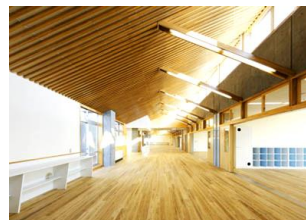
高島屋スペースクリエイツ株式会社

2014年 8月 1日発行 (12月 1日 改訂)

この環境活動レポートは、ホームページからもご覧いただけます。 <http://www.ts-create.jp>

認証・登録事業者の概要

認証・登録事業者 (英文表示)	高島屋スペースクリエイツ株式会社 Takashimaya Space Create Co.,Ltd.
設 立	1939年6月1日 株式会社高島屋工作所として設立 2001年9月1日 株式会社高島屋 建装事業本部と株式会社高島屋工作所の 統合により、高島屋スペースクリエイツ株式会社として発足
資 本 金	1億円
売 上 高	2013度 250億円
従 業 員 数	300名 (エコアクション21活動対象者は350名)
代 表 者	代表取締役社長 明比 実也
認証の範囲	建設業(建築・内装仕上・大工工事)における設計・施工・管理
事業の概要	・ 建築工事、内装仕上工事、大工工事、建具工事、管工事、土木工事等の企画・デザイン・設計・施工・監理・請負およびコンサルティング業務 ・ 百貨店、専門店、ショッピングセンター、飲食店、ショールーム等商業施設・文化施設・環境施設・住宅施設・宿泊施設・事務所等の開発、都市開発、設計・地域開発、環境整備事業およびこれらに関する調査・企画・デザイン・施工・監理・請負およびコンサルティング・教育業務 ・ 航空機、船舶、車輛、自動車、一般建築内部の企画、デザイン、設計および設備の製作施工・監理業ならびにこれに関連する工事の請負業
許 可	[建設業許可] 特定建設業: 内装仕上工事業、建築工事業、大工工事業 国土交通大臣許可(特-22)第4252号/平成22年6月10日 特定建設業: 左官工事業、石工事業、屋根工事業、電気工事業、建具工事業、 タイル・レンガ・ブロック工事業、ガラス工事業、塗装工事業、防水工事業 国土交通大臣許可(特-23)第4252号/平成24年3月19日 特定建設業: 造園工事業 国土交通大臣許可(特-24)第4252号/平成24年9月28日 一般建設業: 管工事業 国土交通大臣許可(般-23)第4252号/平成24年3月19日 [一級建築士事務所] 東京事務所: 東京都知事 第37270号/平成25年6月1日 大阪事務所: 大阪府知事(ト)第9982号/平成25年5月13日
対象事業所	[サイト所在地] 札幌 〒060-0001 札幌市中央区北一条西2-9 オーク札幌ビル2階 TEL:011-205-5211 FAX:011-205-5214 東北 〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町2-2-11 TKビル2階 TEL:022-221-7349 FAX:022-222-4889 本社・東京 〒103-8218 東京都中央区日本橋茅場町2-12-7 高栄茅場町ビル2~3階 TEL:03-5652-1200 FAX:03-5652-1225 中部 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-24-30 名古屋三井ビルディング本館15階 TEL:052-589-8571 FAX:052-561-8401 関西 〒556-0005 大阪市浪速区日本橋3-5-25 高島屋東別館2階 TEL:06-6644-4601 FAX:06-6644-3711 京都 〒600-8023 京都市下京区四条河原町下る富永町338 京都四条河原町ビル9階 TEL:0075-353-7788 FAX:075-361-6441 中・四国 〒730-0032 広島市中区立町1-20 NREG広島立町ビル7階 TEL:082-247-2417 FAX:082-247-2419 九州 〒812-0027 福岡市博多区下川端町1-1 明治通りビジネスセンター本館7階 TEL:092-281-5662 FAX:092-291-4005



環境基本理念

私たちは、「地球にやさしい、人にやさしい良き企業市民」として、全ての事業活動において「地球への環境負荷の低減」と「循環型社会の実現」に努力し、「安全・安心で快適な社会」づくりに貢献します。

環境方針 (咲かせよう5つのバラ)

-  1. 環境関連法令や自主基準等の遵守、有害な物質の使用禁止に努め、安全・安心な資材・製品の使用を促進します。
-  2. CO₂の削減など、環境負荷の低減に努めます。
-  3. 資源の有効活用、廃棄物の3R(発生抑制・再利用・再生利用)に努めます。
-  4. 環境に配慮した企画、設計、提案、商品開発に努めます。
-  5. 全ての従業員とその家族・お取引先に環境方針の周知をはかり、環境保全活動の輪を広げます。



2012年 2月 1日



高島屋スペースクリエイツ株式会社

取締役社長 明比 実也



2014年度 エコアクション21実施体制・認証範囲



※各工事現場での環境管理責任者は、現場代理人(現場所長)または現場責任者とする。(5000万円以上の元請工事現場で実施)

環境管理責任者および推進事務局の連絡先

環境管理責任者	名取 勝寿	安全・コンプライアンス部長	E-mail:katsu-natori@ts-create.jp
推進事務局(東京)	三村 淳	安全・コンプライアンス部GM	E-mail:jun-mimura@ts-create.jp
		〒103-8218 東京都中央区日本橋茅場町2-12-7 高栄茅場町ビル3階	
		TEL:03-5652-1219 FAX:03-5652-1232	
推進事務局(関西)	福本 正明	安全・コンプライアンス部	E-mail:masaaki-fukumoto@ts-create.jp
		〒556-0005 大阪市浪速区日本橋3-5-25 高島屋東別館2階	
		TEL:06-6644-1202 FAX:06-6644-3711	

「エコアクション21」における各自の役割・責任・権限表

役 職	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代表者(社長)	・環境マネジメントに関する統括責任。 ・環境マネジメントシステムの実施に必要な人材、設備、費用、時間等を準備あるいは承認。 ・環境管理責任者を任命。 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知。 ・環境目標・環境活動計画書を承認。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。 ・環境活動レポートの承認。
環境管理責任者 (安全・コンプライアンス部長)	・環境マネジメントシステムとして「エコアクション21」の導入、構築、実施、管理。 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認。 ・環境目標・環境活動計画書を確認。 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告。 ・環境活動レポートの確認。
EA21推進委員会 (各サイト環境管理責任者、 総務及び推進事務局)	・全社共通の環境目標、環境活動計画書原案の作成。(年間及び中長期) ・各サイト(営業所・工場)への環境目標・環境活動計画の周知。 ・全従業員に対する教育訓練の計画・実施の推進。 ・全社的な問題点・改善点の発見、是正、予防処置の実施推進。
サイト代表者 (所長・部門長)	・サイト環境管理責任者と共にサイト・部門の環境目標・環境活動計画を立案、実施。 ・サイトの環境活動計画を各部門・グループに指示・分担し、実施状況を確認。 ・サイトにおける環境活動計画の実施及び達成状況の評価と見直し。
各サイト 環境管理責任者(8名)	・サイトにおける環境目標・環境活動計画の策定。 ・サイトにおける環境目標・環境活動計画の周知。 ・サイトの従業員に対する教育訓練の実施。 ・サイトにおける環境活動計画の実施及び達成状況の確認、推進事務局への報告。 ・サイト及び部門に特定された項目のマニュアル作成及び運用管理。 ・サイトに関連する地域条例の把握と遵守評価の実施。 ・サイトの緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練の実施、記録の作成。 ・サイトの問題点の発見、是正、予防処置の実施。
現場環境管理責任者 (元請工事現場代理人)	・サイト代表者及びグループマネジャーの指示に従い、担当工事現場の環境目標・環境活動計画を実施。 ・担当工事現場の作業員に各自の役割を指示・分担し、実施状況を管理。実施結果を上長に報告する。
グループマネジャー	・サイト代表者(部門長)の指示に従い、グループの環境目標・環境活動計画を立案、実施。 ・グループのメンバーに各自の役割を指示・分担し、実施状況を管理。
全従業員 (社外要員含む)	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚。 ・「私のやることカード」に明記した役割分担を実施し、自主的・積極的に環境活動へ参加。 ・確認者(直属上長)への活動結果・記録の報告。
サイト事務局	・各サイトにおける紙、電気、水、燃料等の使用量、産業廃棄物排出量、グリーン調達データの収集。 ・各サイトにおける計測可能なCO2排出量等のデータの集計および環境活動報告書等の作成。
協力会社 (安全・環境協力会 会員)	・当社の環境マネジメントシステムにおける取組みの理解と協力。 ・協力会社社員、および下請会社への環境活動計画の周知。
EA21推進事務局 (各サイトより若干名選出)	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局。 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。 ・環境目標、環境活動計画書原案、各種マニュアルの取りまとめ。 ・環境活動の実績集計。 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成。 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 ・環境活動レポートの作成、公開(ホームページ、各サイトに備付けと地域事務局への送付)
内部監査員 (内部監査教育受講者)	・各サイトにおける内部監査の実施および報告書の作成。 ・各サイトにおける環境活動計画の進捗確認、推進支援。

2013年度（2013年3月～2014年2月）環境目標・

環境方針	環境目標（Plan）		活動計画・取組み内容（Do）			
	項 目	目 標 値	目標を達成するための具体的実施項目		3月	4月
1 環境関連法令や自主基準等の遵守、有害な物質の使用禁止に努め、安全・安心な資材・製品の使用を促進します。	0101 法令・条例等の遵守	法令・条例違反 0件 法令等年2回見直し 2014年度以降も同じ	0101① 環境関連法令・条例の遵守	違反の有無	0	0
			0101② 法令・条例等の改定調査を実施	確認実施状況		○
				評 価	4	4
	0102 有害な物質の使用禁止とグリーン購入促進	事務用品のグリーン購入比率 80%以上 （2011年は77.2%） 2015年は85%を目標	0102① グリーン（エコ）商品のリスト化と優先購入	母数（千円）	491,433	351,886
			0102② グリーン（エコ）商品の情報収集	グリーン購入	432,894	308,238
			0102③ 購入商品の記録と分析	比率（%）	88.1	87.6
2 CO ₂ の削減など、環境負荷の低減に努めます。	0201 電力使用量の削減	基準年（2011年度） 396,943kWh 189.3t-CO ₂ 2012年度目標は 2011年度実績を維持（各営業所の合計） 2013年度～2015年度も基準年実績を維持する	0201① 不在時・休憩時間の消灯徹底	消灯実施状況	○	○
			0201② クールビズ・ウォームビズによる冷暖房の節減	空調実施状況	○	○
			0201③ 省エネ機器への入れ替え			
			0201④ 現場仮設照明の蛍光灯使用推進	基準年（kWh）	34,171	28,363
				基準年（t-CO ₂ ）	16.3	13.6
				目標値（t-CO ₂ ）	16.3	13.6
			中期計画 LED照明への器具の交換	今期（kWh）	26,728	21,981
				今期（t-CO ₂ ）	12.7	10.5
				評 価	5	5
	0202 ガソリン使用量の削減	基準年（2011年度） 25,568ℓ 59.3t-CO ₂ 2013年度目標は 2011年度実績を維持 2014年度以降も同じ	0202① 営業車・トラックのエコ運転の推進	基準年（ℓ）	2,132	2,073
			0202② 営業車の利用削減（公共交通機関の利用促進）	基準年（t-CO ₂ ）	4.9	4.8
			0202③ 工程管理の徹底による適正配車	目標値（t-CO ₂ ）	4.9	4.8
				今期（ℓ）	1,986	1,564
			中期計画 ハイブリッド車の導入	今期（t-CO ₂ ）	4.6	3.6
				評 価	3	3
	0203 事務所及び現場での節水	100%実施	0203① 手洗いでの水を出しっ放しにしない。	節水実施状況	○	○
			0203② 水を使用しない工法への転換	乾式実施状況	○	○
				評 価	4	4
3 資源の有効活用、廃棄物の3R（発生抑制・再利用・再生利用）に努めます。	0301 廃棄物の適正処理と分別率の向上 資源の有効活用	マニフェスト発行 100%実施 基準年（2011年度） 分別率78.8% 2012年度目標 80%以上 2013年度目標 81%以上 2014年度目標 83%以上 2015年度目標 85%以上	0301① 産業廃棄物管理票（マニフェスト）の電子化推進	発行状況（%）	100	100
			0301② 産業廃棄物の分別の徹底	基準年総量（t）	576.9	110.8
			0301③ 梱包方法の改善等によるゴミの減量化	混合廃棄物（t）	124.1	41.2
			0301④ 廃棄物処理業者の定期的視察・確認（各サイト）	分別率（%）	78.5	62.8
			コピー用紙の使用量削減・リサイクルの推進	目標値（%）	80.0	80.0
			0301⑤ 梱包材の通い梱包化、簡素化	今期総量（t）	838.1	495.1
			0301⑥ 手配材料の（数量・長さ等の）適正化	混合廃棄物（t）	287.3	138.0
				分別率（%）	65.7	72.1
			※産業廃棄物の総量は、当社元請工事のマニフェスト集計値	評 価	3	4
4 環境に配慮した企画、設計、提案、商品開発に努めます。	0401 環境に配慮したエコ材料・商品の拡販・提案率の向上	LED照明、つよスギ、ガイナ等の拡販 Fテーブル：800台/年	0401① LED照明等 環境配慮商品の販売拡大	実施業況	○	○
			0401② カーボンオフセットやエコマーク商品の提案促進	実施業況	○	○
			0401③ エコ材料・商品の情報収集	実施業況	○	○
				評 価	3	3
5 全ての従業員とその家族、お取引先に環境方針の徹底をはかり、環境保全活動の輪を広げます。	0501 環境活動の社内・外への周知徹底とエコ活動の拡大	定例行事で説明実施 タイムリーな公開 年1回の更新 地域でのエコ活動の推進（森林保護、他）	0501① 会社・協力会行事等、定期的説明会の実施	説明実施状況	災害防止協議会	
			0501② 電子掲示板による環境活動の社内告知	告知実施状況		
			0501③ 環境活動レポートの更新と公開	発行・公開状況		
			0501④ TSCの森の維持管理継続	維持管理状況		
			長期計画 TSCの森の維持管理は1993年～2053年までの60年間	評 価	3	5

【評価基準】

レベル	取組状況	評 価	達成率
5	大変よく実施されている	目標値を大きく上回った	100%以上
4	よく実施されている	目標を達成した	80～100%
3	特に問題なし	ほぼ目標を達成した	60～79%
2	やや問題有り	目標をかなり下回った	20～59%
1	問題あり。是正処置が必要	ほとんど実施できなかった	0～19%以下

活動計画表 兼 実績・評価（全社）

承認	確認	作成	
代表者	環境責任者	推進事務局	
明比	名取	三村	福本
2014.06.25	2014.06.23	2014.06.20	2014.06.20

スケジュールと 実績評価											確認 (Check)		見直し (Action)	
5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計	環境管理責任者の 定期的確認と評価		代表者の評価・見直し 次年度目標・課題	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	上半期	・各サイト共に法令を遵守 し、違反事項は無い。	・年2回、内部監査と同時 に調査を実施する。	
					チェックリスト更新		○	○						
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4				
367,636	380,252	408,371	470,946	524,677	416,484	793,535	1,156,760	276,770	537,484	6,176,234	年度 総括	・条例の確認は年1回に 留まっている。 ・グリーン購入は定着して きた。	・グリーン購入率の向上 80%以上	
334,284	342,268	338,197	411,791	390,724	346,415	402,141	975,958	241,712	408,456	4,933,078				
90.9	90.0	82.8	87.4	74.5	83.2	50.7	84.4	87.3	76.0	79.9				
5	5	5	5	4	5	3	5	5	4	4	上半期	・消灯は全員が実行。 ・クールビズの5月1日よ りスタート(9月末まで) ・白熱灯の仮設照明は少 なくなったが、一部LED 化には至らない。	・消費電力の更なる削減 ・省エネ機器への入替え ・低公害車への移行 ・会議資料の見直し ・クールビズを早期にス タートする ・ その他業務改善	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
27,586	33,258	37,182	40,526	35,398	27,295	26,314	31,162	37,832	37,855	396,943				
13.1	15.8	17.7	19.4	17.0	13.1	12.6	14.9	18.0	18.0	189.3				
13.1	15.8	17.7	19.4	17.0	13.1	12.6	14.9	18.0	18.0	189.3				
23,327	27,060	34,684	36,474	30,559	25,226	22,890	27,799	30,577	31,166	338,472				
11.1	12.9	16.5	17.4	14.6	12.0	10.9	13.2	14.5	14.8	161.3				
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	年度 総括	・東日本大震災以降、節 電意識が向上したが、 更にあらゆる節電が実 施され、予想以上の成 果が上がった。 ・ガソリンの使用量は、 昨年の水準を維持して いる。	・取引先への指導徹底 ・消費電力の更なる削減 ・事前ミーティングの徹底	
2,061	2,763	2,717	2,355	1,754	1,685	1,646	1,777	2,124	2,481	25,568				
4.8	6.4	6.3	5.5	4.1	3.9	3.8	4.1	4.9	5.8	59.3				
4.8	6.4	6.3	5.5	4.1	3.9	3.8	4.1	4.9	5.8	59.3				
1,704	1,882	2,178	1,524	1,812	1,651	2,471	2,664	2,861	2,863	25,640				
4.0	4.4	5.1	3.5	4.2	3.8	5.7	6.2	6.6	6.6	58.4				
3	5	5	5	4	3	4	3	5	5	4				
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		上半期	・混合廃棄物の合計1448tの 内1136tが東京から排出。 分別率を向上させるため、 処理方法の見直しが必要。	・電子化の推進 ・取引先への定期的な 指導・教育	
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4				
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100				
259.9	258.6	298.2	717.8	547.9	420.2	335.1	168.7	663.0	829.1	5,186.2				
42.8	60.0	88.4	99.5	123.6	61.4	107.0	65.5	138.3	149.2	1,101.0				
83.5	76.8	70.4	86.1	77.4	85.4	68.1	61.2	79.1	82.0	78.8				
80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0				
526.1	227.0	640.6	892.6	553.5	450.7	348.3	149.5	863.4	746.6	6,731.5				
114.5	22.2	112.9	196.5	96.9	45.8	40.3	62.3	161.7	169.8	1,448.2	年度 総括	・中部・関西・京都・中四国 は90%以上分別ができ ているが、東京の混合廃棄 物の総量が多いため、全 体の分別率が低下した。	・全サイトでの産廃処理 業者への視察・確認 ・取引先への指導 ・分別率80%以上を目指す	
78.2	90.2	82.4	78.0	82.5	89.8	88.4	58.3	81.3	77.3	78.5				
4	5	5	4	5	5	5	3	5	4	4				
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		上半期	・LED照明は、導入推進の み、自社環境商品はファン レストテーブルに絞込む。	・環境に配慮した企画、設 計、提案情報の共有化 ・取引先との共同開発	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
											年度 総括	・遮熱塗料ガイナは、提携 工場の屋根に塗布し、成 果を上げた。	・販売目標の明確化	
							FANレストテーブル実績			745台/年				
3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3				
新入社員教育の実施					各地区安全大会		内部監査、現地審査				上半期	・各地の災害防止協議会 でEA21の活動を紹介し、 協力会社にも活動を拡大	・定期的な説明会の 継続実施	
						○	○							
				更新・HPで公開		各地の環境局訪問説明								
		森林組合と調整		TSCの森の間伐							年度 総括	・森の間伐実施、各地での 内部監査実施など社員へ の意識付けができた。	・顧客に対するPR強化	
4	3	3	3	4	5	4	3	4	3	4				

定例行事日程	札幌	東北	東京	中部	関西	京都	中・四国	九州	備考
協力会総会	5/17	5/24	4/10	4/18	4/15	—	4/25	4/26	エコアクション21の活動報告、延363名参加
安全大会	10/16	10/25	10/7	10/18	10/11	—	1/17	10/23	エコアクション21の活動報告、延360名参加
防災訓練・教育	—	—	3/29	11/14	11/22	11/7	—	9/21	各ビルの防災訓練・および防災センターでの教育
EA21内部監査	12/13	11/19	11/18	11/22	11/7	11/7	1/17	1/14	各サイトのヒアリングおよび教育
EA21更新審査	12/17	—	12/24	—	12/17	12/17	—	—	各サイト事務所・現場の現地審査

2013年度の計測可能なサイト別・月別 CO2排出量

2013年度(2013年3月～2014年 2月)

計測可能な CO2排出量	目標値(12ヶ月)	実績値(12ヶ月)	削減値	削減率
	248.6t-CO2	220.2t-CO2	△28.4t-CO2	△11.4%

- 計測可能なCO2排出量は、各営業所(工事現場を除く)の電気使用量と社用車のガソリン使用量から算出。
 - 2013年度の計測可能な全社CO2排出量目標値は、「基準(2011)年度実績を維持する」としていました。
- ※比較のため2012年11月に環境省が公表したのCO2排出係数で統一、248.6t-CO2 = 2013年度の目標値とした

2011年の実績に基づく電気事業者ごとの実排出係数(t-CO2/kWh)

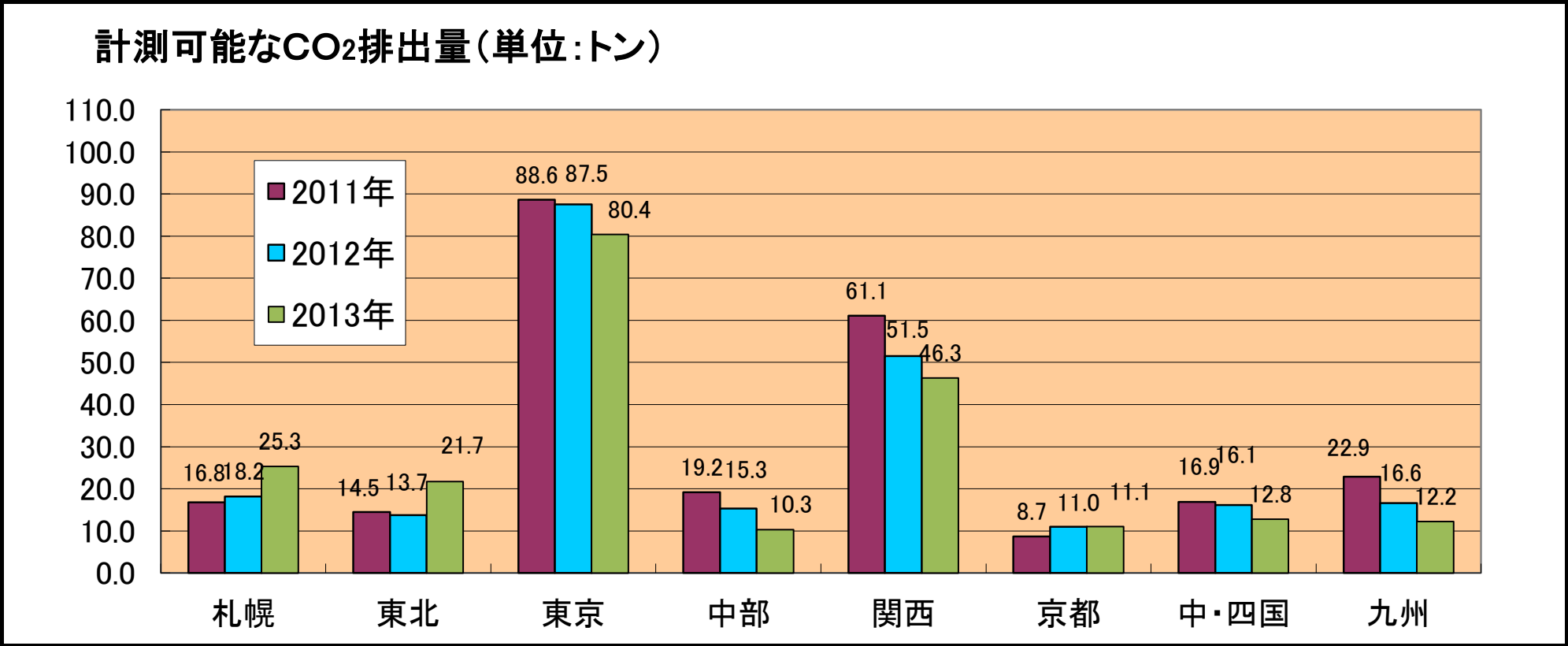
サイト(営業所)	事業者名	実排出係数
札幌	北海道電力株式会社	0.000485
東北	東北電力株式会社	0.000547
東京	東京電力株式会社	0.000464
中部	中部電力株式会社	0.000518
関西	関西電力株式会社	0.00045
京都	関西電力株式会社	0.00045
中・四国	中国電力株式会社	0.000657
九州	九州電力株式会社	0.000525

ガソリンのCO2 排出係数(t-CO2/l)

サイト(営業所)	排出係数
全サイト共通	0.00232

- 2013年度のCO2排出量は、220.2t-CO2で、前年の 229.9t-CO2 より 9.7t-CO2、目標値より 28.4t-CO2 の削減ができています。 削減率は11.4%を達成。

2011年度(基準年＝目標値)と2013年度までのサイト別比較



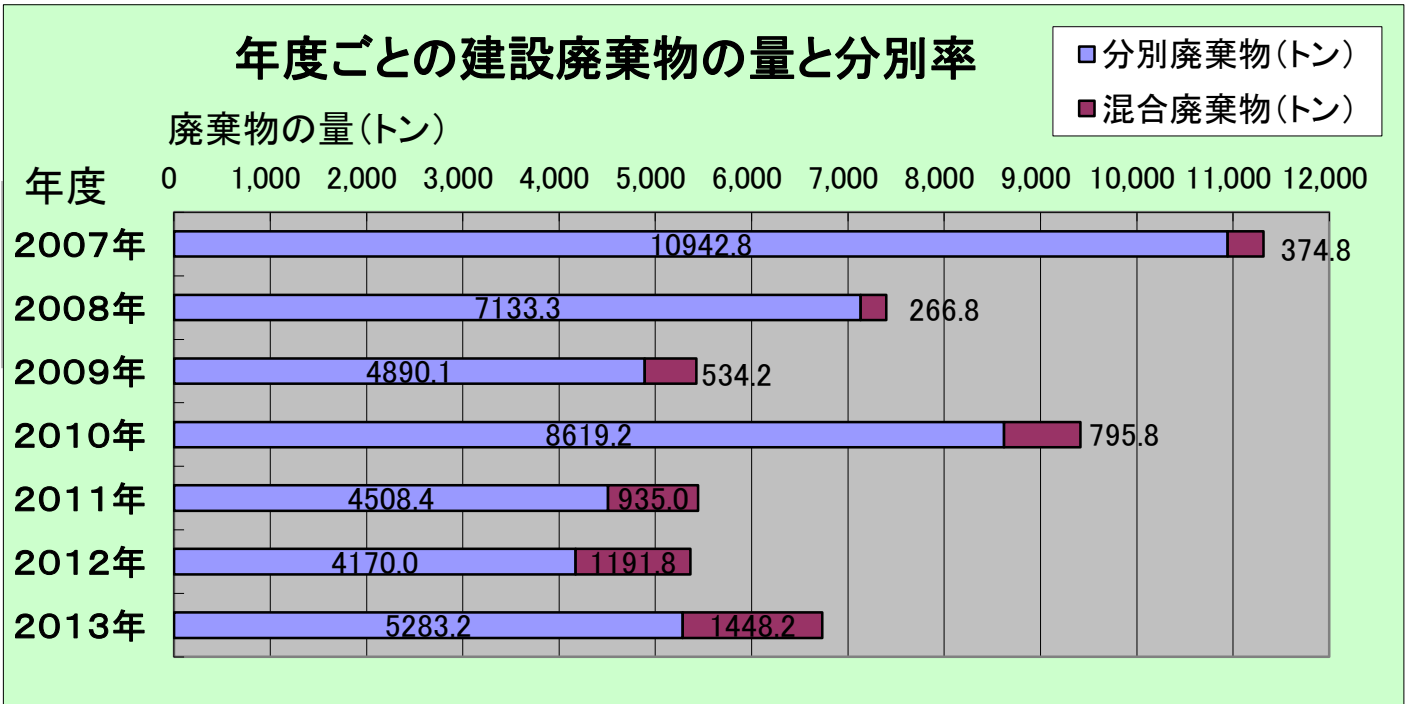
2013年度 サイト・月別 CO2排出量 (2013年 3月～2014年 2月) (単位:t-CO2)

サイト		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
1	札幌	2.4	1.6	1.6	1.4	2.2	1.9	1.5	1.5	2.3	3.2	2.9	3.0	25.3
2	東北	1.2	1.1	1.0	1.6	1.7	1.1	1.6	1.6	2.4	2.6	2.8	3.0	21.7
3	本社・東京	6.3	5.0	5.4	6.2	8.3	8.6	7.0	5.6	5.1	6.7	8.2	7.8	80.4
4	中部	0.8	0.9	0.8	0.9	0.8	0.8	1.1	0.8	0.9	0.9	0.7	0.9	10.3
5	関西	3.8	3.0	3.7	4.0	4.9	4.7	4.2	3.9	3.4	3.7	3.6	3.6	46.3
6	京都	0.9	0.7	0.4	0.8	1.1	1.5	1.2	1.1	0.7	0.8	0.8	1.2	11.1
7	中・四国	0.9	1.1	1.0	1.4	1.4	1.4	1.1	0.9	1.0	1.0	0.9	0.9	12.8
8	九州	1.0	0.8	1.1	1.1	1.6	1.0	1.1	0.5	0.9	0.7	1.3	1.1	12.2
合 計		17.3	14.1	15.0	17.3	22.1	21.0	18.8	15.8	16.7	19.5	21.2	21.5	220.2

建設現場からの廃棄物について

年度	廃棄物合計(トン)	分別廃棄物(トン)	混合廃棄物(トン)	分別率(%)	元請工事金額 (百万円)	百万円あたりの 廃棄物の量(トン)
2007年	11317.6	10942.8	374.8	96.69	19,921	0.57
2008年	7400.1	7133.3	266.8	96.40	17,063	0.43
2009年	5424.3	4890.1	534.2	90.15	14,062	0.39
2010年	9415.0	8619.2	795.8	91.55	15,026	0.63
2011年	5443.5	4508.4	935.0	82.82	13,873	0.39
2012年	5361.8	4170.0	1191.8	77.77	17,580	0.30
2013年	6731.4	5283.2	1448.2	78.50	18,512	0.36

●2010年より解体工事の増加により、混合廃棄物が増加しているが、工事金額(100万円)当たりの廃棄物の総排出量は減少しています。



大規模現場の分別例



現場事務所の分別例

産業廃棄物処理施設の現地確認

適正処理の追跡調査

元請工事の場合、各建設現場から排出された廃棄物が、適正に処理されているかを元請は定期的に現地確認する義務が有ります。
当社の元請現場から出た廃棄物については年に1回、当社が契約している各地の中間処理場・最終処分場の視察を行い、許可証や保管場所の確認、近隣対策や分別やりサイクルの状況等を確認しています。

■現地視察確認事項

- ①産業廃棄物収集・運搬、処分業の許可
- ②産業廃棄物の分別・保管の状況
- ③分別・再生処理設備と処理能力
- ④従業員の健康管理と福利厚生対応
- ⑤施設の立地と近隣への環境配慮 他



愛知県の中間処理施設
(2013年11月23日視察)



大阪府の中間処理施設
(2013年 6月18日視察)



福岡県の中間処理施設
(2013年 6月14日視察)



各営業所のエコ事業所認定

2009年2月に「エコアクション21」の認証を受け、2011年、2013年とレベルアップをしながら2回の更新審査に合格しましたが、この認証取得に加え、東京以外の全てのサイト(営業所)が当該地区の「エコ事業所」に認定・登録されました。

各サイトでは、独自に申請を行い、環境に配慮した事業活動の一連の取組みが評価され、「エコ事業所」としての審査に合格し、以下の認定・登録証を各営業所に掲示しています。

東京 他 全サイト



認証・登録番号: 0003296



札幌サイト



札幌市 登録番号: 073-0005

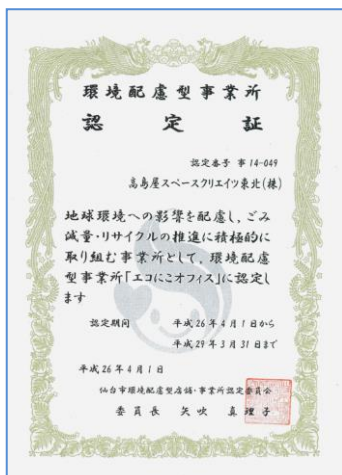
北海道 登録: ☆☆☆



東北サイト



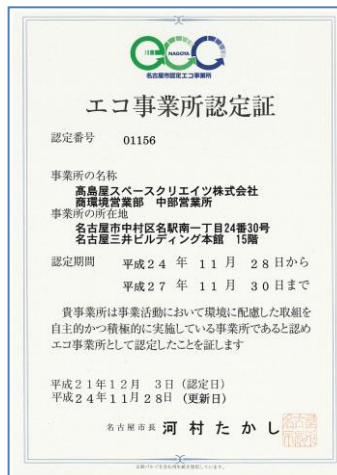
仙台市 認定番号: 事14-049



中部サイト



名古屋市 認定番号: 01156



認定番号: 24-0276



中日本営業部のマイスター中川さん

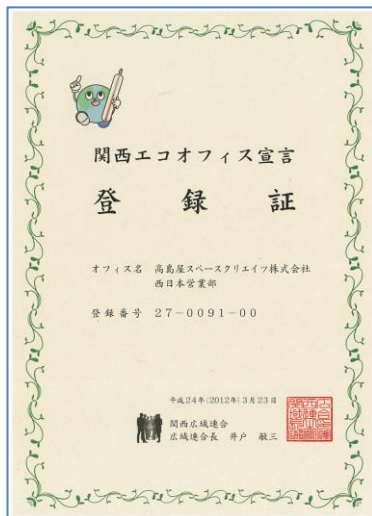
各営業所のエコ事業所認定

※「エコ事業所」認定制度とは、事業活動における環境に配慮した取組を自主的かつ積極的に実施している事業所について、地方自治体が独自の厳正な審査を行い認定・登録するものです。
また、毎年実績報告書を市環境局に提出し、更新手続を行っています。

関西 サイト



大阪府 登録番号:27-0091-00



京都サイト



京都府 登録番号:26-0018-00



中・四国サイト



広島市 認定番号:0002



九州サイト



福岡県 登録番号:1332



2013年の総排水量、化学物質使用量、グリーン購入、自らが施工・販売する製品

■総排水量

総排水量(水使用量)については、各営業所共に水周りがビルの共用になっているため、自社単独の使用量については計測できません。努力目標として、「手洗いでの水を出しっ放しにしない」など、貼り紙などにより節水に努めています。

また、各工事現場においても単独のメーターが無いため、総排水量は計測できませんが、水を使用しない工法への転換など、水使用量の削減に努めています。



節水を促す表示の貼りつけ(東京)



室内環境測定の実施例(関西)

■化学物質使用量

当社の環境方針として、「有害な物質の使用禁止」を掲げています。各工事現場で使用する塗料、接着剤等は、使用の際、MSDS(製品安全データシート)を取り寄せ、PRTR制度対象物質が含まれていない事を確認しています。

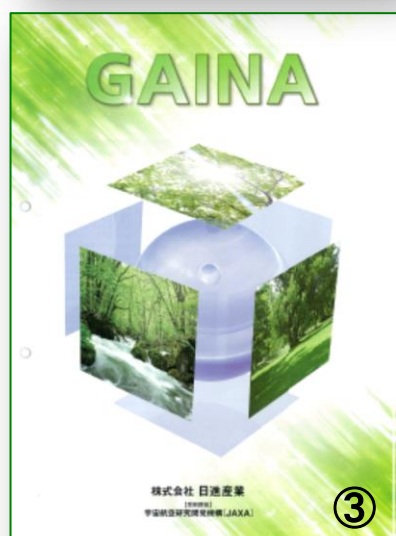
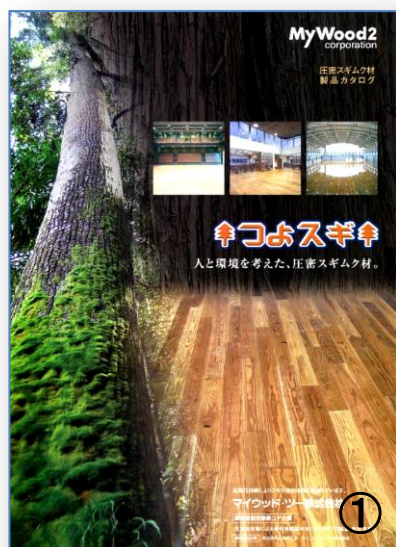
また、出来上がった製品(家具、什器等)および居室においても、必要に応じて環境測定を行い、有害な物質が建築物環境衛生管理基準値を超えて放出されていない事を確認しています。

■グリーン購入

当社では、2011年3月よりグリーン購入基準を制定し、社内で使用する事務用品については環境に配慮した商品を優先的に購入し、工事現場の資材調達においても施主や設計事務所からの指定が無いものは、コストバランスを考慮しながら、環境に配慮した商品を提案・調達しています。

2013年度の営業所における事務用品のグリーン購入実績は、金額で対比した場合、環境に配慮した商品が全購入額の79.9%でした。

2014年度の目標は、グリーン購入率80%以上達成を目指しています。



■自らが施工・販売する製品

事業の大半が、建築内装仕上げで、大手ゼネコンや設計事務所から請負工事については、商品や仕様が指定されていることが殆どですが、元請け工事においては、お客様に喜んでいただける環境に配慮した商品の提案や設計を心がけています。

施工に際しては、全国250社を超える主要協力会社に対して、安全と環境の教育を年2回実施し、当社の環境方針や取組を説明すると共に、環境活動への協力を要請しています。

また、販売面では、

- ① スギの間伐材利用を促進するため、圧密化技術により、やわらかく、傷やへこみが付き易いスギの特性を改善したフローリング材の施工・販売
- ② 環境だけでなく、人にも優しい商品として、紙おむつを削減し、移動介助を受ける人・行なう人のための前傾姿勢支持テーブル「FUNレストテーブル」の開発・販売
- ③ 断熱・遮熱性が高く、結露防止・防音・防汚・空気質改善など15におよぶ機能を発揮する特殊セラミック塗料「ガイナ」の施工・販売

など、生活環境に配慮した商品の開発や提携販売も推進しています。

● 特殊セラミック塗料「ガイナ」の施工事例



提携先の工場および事務所の屋根
約 5,000㎡ (塗布面積: 約 7,000㎡)



向かって左側がガイナ塗布前
塗布前の屋根は、素手でさわれない



ガイナ吹き付けの様子
(2回塗りで塗膜厚800μ)

屋根の表面温度を施工前後で比較すると、-22.5℃の温度低減効果がみられました。

また、工場内の温度は、前年同時期 38℃に対し、施工後は 31.28℃を計測したことで、-6.72℃の室温低減効果がありました。(視察日: 2012年7月19日 堺市)

森林育成「高島屋スペースクリエイツの森」



高島屋スペースクリエイツの森の全景（静岡県浜松市北区三ヶ日町 2014年 1月撮影）

木を育て、木に感謝

社員の提案による社会貢献事業として1992年の苗木募金からスタートした「高島屋スペースクリエイツの森」、林野庁の分収造林制度を利用して、静岡県浜松市の自然休養林内に3.18ヘクタール（約1万坪）の土地を借り受けて、約9000本のヒノキや広葉樹を植樹して以来20年が経過しました。

1993年4月の植樹祭から5年間、下草刈りに参加した社員ボランティアは延べ600名に達し、見事な森に再生した現在は地元の森林組合に枝打ちや間伐などの維持管理を委託しています。

この森が吸収するCO₂の量は、1年間で約**120t-CO₂**、CO₂削減に大きく貢献するだけでなく、環境への意識を高める上で当社の社員教育の材料にもなっています。

苗木が成木になるまで50～60年、下草刈り、枝打ち、間伐と、地道で根気のいる作業が続きますが、木や森の恩恵を受けている私たちは、感謝の気持ちを込めて森林育成活動をこれからも続けてまいります。



植樹前の森（1993年3月）



20年で直径30センチ近くに成長したヒノキの切り株



社員の手で下草刈りを実施
（1994年 8月日）



森林組合の方による間伐作業
（2012年 9月13日～10月29日）

各サイトでのエコ活動

新TV会議システム導入



2012年8月より従来のTV会議システムを、インターネット回線を利用した新しい機種に切り替え、2013年からは全社で快適に多くの場所とTV会議ができるようになり、出張の回数が更に削減できました。

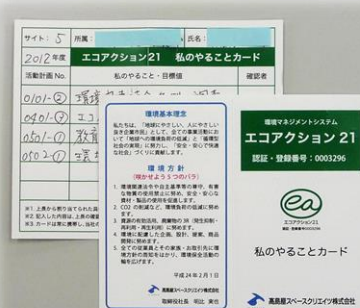
宅配専用バッグ

各サイトへの宅配便は、発送日を決めて、専用バッグでまとめて発送しています。また、使用済み封筒に宛先用紙を貼って、書類の発送等に何度も再利用しています。



東京⇄大阪連絡便専用バックと
関西サイト総務の井尻さん(右)

私のやることカード



節電やゴミの分別、コピー用紙の削減以外に、社員全員がそれぞれ自分の業務に合ったエコ活動を分担し、「私のやることカード」に毎年自分の役割や目標を記載して携帯しています。

ハイブリッド車の導入



九州サイトでは、営業車のリースアップに伴い、2013年8月30日より当社で初めてハイブリッド車を導入しました。

燃費は従来の商用車と比較して約1/3になり、CO₂と経費の削減に大きく貢献しています。

リース料金が地域によって異なるため、全てのサイトでの導入には少し時間がかかりそうですが、入替時には環境に配慮した車種を検討し、順次エコカーへの入替を推進すると共に、エコドライブ、公共交通機関の利用を推進しています。

室温管理の徹底

冷房は28℃以上、暖房は20℃以下の室温をキープするように事務所の各所に温湿度計を設置し、こまめに空調機の温度調整をすると共に毎日担当者が記録を残しています。



更に、クールビズは5月1日からスタートし、各サイト毎に冷房機器の使用をできるだけ抑えるようにしています。

LED照明の導入



東京サイトでは、LED照明を設計提案する企業として、事務所の天井照明を従来の蛍光灯から、全て特注のLED照明に入れ替えました。この入れ替えにより、事務所の電力消費を更に削減できるようになりました。



蛍光灯と同じ形のLED天井照明
(2013年 7月撮影)

各サイトでのエコ活動

ゴミの分別の徹底

各サイトでは、その地域の条例に従い、独自の分別を行っています。

図面や機密書類は、できるだけシュレッダーに掛けたり焼却処分にせず、専用のバスケットに集積してからダンボール箱に密封し、業者に依頼して溶解処分をしています。これにより焼却によるCO₂の発生を抑制できるだけでなく、古紙はトイレットペーパー等に再生されます。

大阪市では焼却ゴミの削減のため、2013年8月から紙ゴミの分別を細分化する条例が施行され、紙屑をリサイクルできる紙とリサイクルできない紙に分別、更に①新聞、②雑誌、③OA紙、④段ボール、⑤紙パック、⑥シュレッダー紙は別にするなど、保管場所と回収・管理担当を決めて分別を徹底しています。



機密書類を分別する小森田さんと、溶解処分紙 専用バスケット(東京)



写真で分別内容を表示(中日本)



箱詰めされ、地下倉庫に保管される機密書類(東京)



再生できる紙と再生できない紙の分別をイラストで表示したバスケット(大阪)

環境を考える会

内装・設備・産業廃棄物処理会社の親睦と情報交換を目的として、2009年に発足した「環境を考える会」に当社も加盟し、東京と大阪で実施される勉強会や行事に参加しています。



大阪での勉強会(2014年7月)

毎回、環境関連法規の改正や産廃処理問題など、同業者間で情報を持ち寄り、勉強会や親睦会を定期的開催して、普段聞けない各社の対応方法を勉強しています。

ソーラー発電施設見学会
(2013年6月)

優良施設見学会の開催

当社の安全・環境協力会では、毎年各地で施設見学会を開催しています。2013年11月には、兵庫県のパナソニックエコテクノロジーセンター(株)を訪問し、全国から回収された家電製品のリサイクル工程について、ビデオで概要説明を受けた後、施設内を巡回して、空調機やテレビ、冷蔵庫や洗濯機など、大型家電製品の分解・分別作業工程、粉碎し再生できる材料の抽出設備など、模型による解説を交えながら詳しく説明していただき、レベルの高いリサイクルシステムを取引先の方々と一緒に学ぶ事ができました。



パナソニックエコテクノロジーセンターの前で(2013年11月8日)

建築工事現場での環境活動

エコ照明への転換

従来、工事現場では仮設照明に白熱灯の投光器が多く使用されていましたが、現場においてもCO₂削減を実現するために、元請現場では原則として白熱灯の灯光器を使用禁止とし、仮設照明のほとんどを蛍光灯に転換しています。これにより器具の寿命が飛躍的に延び、消費電力も同じ明るさで5分の1程度まで抑えられています。今後は、更に普及しつつあるLED照明の導入も推進していきます。



従来の白熱電球に代わる
らせん型蛍光灯の灯光器



蛍光灯を縦に複数本配置した
スタンドタイプの照明器具

現場での廃棄物の削減



集積場の持ち込まれた分別袋

大規模工事においては、各取引先に指定のゴミ袋を事前に販売することによって、分別が徹底できると同時に、ゴミ袋の有料化を各自が意識して、ゴミの削減にもつながりました。

値段の異なる6種の廃棄物処理袋

番号	処理袋	袋の色
1	紙類、可燃物	桃色
2	混合物、不燃物	青色
3	金属くず	緑色
4	廃プラスチック	灰色
5	木くず	茶色
6	石膏ボード	黄色

建築工事現場での環境負荷チェック

原則 5000万円以上の元請工事現場では、建築現場における環境活動マニュアルに従い、環境活動および環境負荷の確認を現場管理者が行っています。

営業所

建設工事環境負荷 チェックリスト

工事現場 名称			
工事現場 住所			
現場事務所 住所	現場事務所を工事現場と別に契約した場合記載		
現場環境管理責任者	工期	年 月 日 ~ 月 日	

1. 工事の規模

項目	数量	単位	備考
売上高		百万円	
延べ従業員数		人	
工事面積		m ²	
工事内容			

2. 環境への負荷状況

項目	数量	単位	備考
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	t	エネルギー使用量より算出
② 廃棄物排出量	一般廃棄物	t	現場では廃棄しない
	産業廃棄物	t	産業廃棄物集計表 参照
③-1 総排水量	公共用水域	m ³	排出しない
	下水道	m ³	トイレのみ
③-2 水使用量	上水道	m ³	契約現場のみ
	地下水	m ³	使用しない
④ 化学物質使用量		kg	PRTR制度対象物質は、原則 現場で使用しない 出荷証明書及びMSDSを添付
(塗料、接着剤、他)		kg	
⑤ エネルギー使用量	購入電力	Kw	契約現場のみ
	ガソリン	ℓ	営業車を使用した場合
	その他		
⑥ 資源等使用量		t	

(注1) このチェックリストは、5,000万円以上の元請工事を実施する。

2012年 9月 1日改訂

(注2) 現場環境管理責任者は、現場代理人または任命者とし、チェックリストは、工事完了後、調達・安全環境部に提出する。

(注3) 塗装工事は、主な塗料のメーカー出荷証明書とMSDS(製品安全データシート)をチェックリストに添付して保管する。

環境負荷チェックリストの例

建設工事環境活動実施項目チェックリスト(記入例)

工事現場 名称	〇〇〇店 改修工事		
工事現場 住所	〇〇市中央区〇〇通り 3-2-1		
現場事務所 住所	〇〇市中央区〇〇橋 1-2-3 〇〇ビル 3階 321号室		
現場環境管理責任者	高島 太郎	工期	2013年 3月20日 ~ 5月28日

環境活動実施項目	確認	備考
現場事務所での実施項目		
① 不要な場所と昼休みの消灯、不在時のパソコン電源OFF	○	
② 過剰な冷暖房の禁止(夏は28℃、冬は20℃)	○	
③ 夏場はクールビズを、冬場は重ね着をする。	○	
④ コピー機等の事務機器は、省エネ型を選択する。	—	
⑤ 暗くなる前に仕事が終わるように始業時間を調整する。 (サマータイムの導入)	—	昼夜工事の為
⑥ 使用していない電気器具は、コンセントからプラグを抜く。	○	
⑦ 手洗い水は、出しっぱなしにしない。	○	
⑧ エコマーク商品を優先的に購入する。	○	
工事現場内での実施項目		
① 作業場内は、出来るだけ自然光を取り入れ、照明を節電する。	○	
② 投光器は、白熱灯を蛍光灯等の省エネ器具に取替える。	○	水銀灯→蛍光灯
③ 不在時、休憩時は消灯する。	○	
④ 使用していない電動工具は、コンセントからプラグを抜く。 (不在時、休憩時も同様)	○	
⑤ ラジカセなど、個人の電気製品は、現場の電源を使用しない。	○	
⑥ 悪臭・騒音・振動の発生防止または抑制に努める。	○	音の出る工事は夜間
物流面での実施項目		
① 適正な工程管理で資材を効率よくまとめて搬入する。 (運搬回数を減らす)	○	工程打合せによる
② 梱包方法・積み方を工夫し、積載量や廃棄物を減らす。	—	取引先に指導
③ トラック、営業車はエコドライブを心掛ける。	—	取引先に指導
④ また、停車時のアイドリングは必要最小限にする。	—	
⑤ 梱包材を現場の養生材、または次の梱包材に再利用する。	—	
工法改善と品質管理		
① 油性塗料を水性にする、塗装をシートやフィルムにする。	○	設計段階で指定
② プレカット、パネル工法等で現場での加工時間を短縮し、ゴミを減らす。	○	取引先に指導
③ 3段階チェックによる品質・安全管理を徹底し、手直し・手戻り、引き渡し後の事故・トラブルを無くす。	○	3段階チェックリストを現場に表示
適正な廃棄物処理		
① 廃棄物の運搬・処分委託契約を事前に行う。	○	
② 廃棄物の発生をできるだけ抑制する。	—	
③ 廃棄物の分別を徹底する(分別率の向上=リサイクル率の向上)	○	分別かごを用意
④ マニフェストを適正に発行する(紙マニフェストから電子化へ)	○	電子で実施

(注1) このチェックリストは、5,000万円以上の元請工事を実施する。

2012年 9月 1日改訂

(注2) 現場環境管理責任者は、現場代理人または任命者とし、チェックリストは、工事完了後、調達・安全環境部に提出する。

(注3) また、マニフェスト回収後に安全環境Gで当該現場の廃棄物集計表を作成し、チェックリストに添付して保管する。

環境活動チェックリストの記入例

社員・協力会社への環境教育

取引先への啓蒙

総会・大会での活動報告

毎年4月に各サイトで社員・協力会社が集まり、災害防止協議会と安全・環境協力会総会を開催します。また10月には安全大会を開催しています。この機会を利用し、社員だけでなく、取引先に対しても年に2回エコアクション21の環境活動報告および年度目標の説明を実施しています。会場ではプロジェクターを使って目標や環境活動実績のデータを表示し、各営業所内の環境活動だけでなく、産業廃棄物の分別や削減など、建設工事現場でできる環境活動についても説明し、取引先の方々にもエコアクション21のご理解と協力をお願いしています。



品川プリンスホテル(2013年4月10日)



スイスホテル南海大阪(2013年4月15日)



東京マツダホール(2013年10月7日)



大阪建設交流館(2013年10月11日)

適正な産業廃棄物処理の徹底

廃棄物適正処理社内教育の実施



(左)大阪:2014年1月28日



(下)大阪:2014年4月10日

2011年度より産業廃棄物の適正処理教育を、各地区の社内・外で実施しましたが、更に周知徹底を図るため、2013年度以降も新入社員や取引先を交えて社内教育を東西営業所で継続実施しています。

一般廃棄物と産業廃棄物の対応の違い、排出事業者の責任と産廃処理委託契約、廃棄物管理票の発行など、産廃処理の基礎知識を習得していただきました。

廃棄物管理者教育への参加

2011年4月からの廃棄物処理法改正に伴い、高島屋グループでも廃棄物管理者教育を毎年実施しています。

2013年も東西で開かれた講習会には、各グループ企業から多数の関係者が参加しました。

当日は、(株)アミタ持続可能経済研究所より講師をお招きして講習と検定を行い、当社からも東西の営業所から数名が受講し、廃棄物管理者検定【基礎】の合格証が授与されました。



検定合格証



(上)大阪:2013年6月4日



(右)東京:2013年5月27日

緊急時の対応・訓練

地域との交流

近隣小学校での防災訓練

高島屋グループでは、火災や震災などの緊急事態備え、緊急時対策マニュアルの作成、携帯電話による安否確認システムのテストや防災訓練を毎年実施しています。特に関西の営業所がある高島屋東別館では、毎年2回以上防災訓練を実施し、11月には、大阪市消防局の協力を得て、隣接する日本橋小学校および地域の自治会と合同で防災訓練を実施しています。

2013年度は、ビル内の火災消火訓練に引き続き、高島屋グループの職員と小学校の児童が協力して消火器の放水を行ったり、煙のテントの中を避難する体験や倒壊した建物の下敷きになった人の救出、レスキュー隊による屋上降下訓練など、地域との交流を図りながら日頃なかなか体験できない防災訓練も実施されました。

（撮影：2013年11月21日 日本橋小学校）



建物内での火災消火訓練



職員と児童が校庭に避難・整列



煙のテント中の避難体験



児童と職員と一緒に消火訓練



倒壊した建物からの救助訓練



レスキュー隊の降下実演

救命講習会の開催

講習会参加者が人命救助で表彰

毎年協力会社を交えて「普通救命講習会」を各地で開催しておりますが、2013年9月に九州で開催した「普通救命講習会」に参加された協力会社の方が、2014年2月に、屋外作業中に倒れた方に対して迅速かつ適切な心肺蘇生を実施し、救命されました。5月1日(木)、この人命救助を行った協力会社の有村 孝一さんに対し、粕屋北部消防署長から感謝状が贈呈され、粕屋北部消防本部のホームページのトピックスで紹介されました。

救助された方がその後無時社会復帰されたことは、非常に喜ばしいことです。



福岡市博多消防署で昨年実施した「普通救命講習会」の訓練の様子。右が有村さん、左は有江エリア長、中央は、九州営業所 鳥山部長。
(2013年9月21日)

福岡県粕屋北部消防本部のホームページ・トピックスで紹介された感謝状贈呈の写真(2014年5月1日)
有村 孝一さん(左)と粕屋北部消防署長(右)



環境関連法規等の確認方法と遵守状況、違反・訴訟等の有無

- 環境関連法規 及び事業活動を行う各地域の環境関連条例の調査を行い、「環境関連法令・条例等遵守チェックリスト」を作成して、サイトごと及び現場ごとに適合状況をチェックしました。
- 環境関連法令・条例等は、全てのサイトにおいて遵守し、違反は一切ありません。
工事現場において粉塵や漏水のトラブルは数件有りましたが、迅速に対応処理を行いました。
振動や騒音、臭気等による近隣や第三者からの苦情もありません。
産業廃棄物は、100%マニフェストを発行し、適切に処理されていることを確認しています。
関係当局からの違反の指摘も過去3年間以上ありません。また、訴訟についても同様にありません。

代表者による全体評価と見直しの結果

9

代表者による全体評価と見直しの結果

5つの環境方針



1. 環境関連法規の遵守と有害な物質の使用禁止

環境関連法令・条例等の遵守は各サイト共に徹底できており、違反行為はありませんでした。
また、取引先を含めて有害な物質の使用禁止を徹底し、公共性のある工事現場では、自主的に環境測定を行なった結果、環境上の苦情やトラブルもありませんでした。
今後は、グリーン購入率の向上(80%以上)を維持すると共に、更に化学物質の把握と有害な物質の排除に努め、安心・安全で環境に配慮した空間創りに努力します。



2. CO₂の削減など環境負荷の低減

2011年3月の東日本大震災以降でできるかぎりの節電につとめ、2011年度は前年比で18.3%の削減を達成できました。これ以上の削減は難しいと考え、2013年度の計測可能な全社CO₂排出量目標値は、「2011年度(基準年)実績を維持する」としていましたが、2013年度のCO₂排出量は220.2t-CO₂で、基準年より更に28.4t-CO₂(削減率:11.4%)の削減ができたことは、大いに評価できる結果と言えます。水の使用削減については、共用設備のため自社による管理ができませんが、努力目標として、これからも節水に努めています。今後、更なるCO₂削減に向けて、各サイト共に節電の徹底、設備機器や車両の見直し・入替えなど、新たな取組みを含めた活動を推進します。



3. 産業廃棄物の削減と資源の有効活用

マニフェストによる管理を100%実施し、不正な処理は一切ありませんでした。また紙マニフェストから電子マニフェストへの移行を促進し、96%以上の電子化ができました。
2014年度は、元請工事現場における産業廃棄物の発生抑制・削減、および分別率・リサイクル率の向上、廃棄物処理場の現地確認に積極的に取組みます。



4. 環境に配慮した設計・提案の推進

百貨店工事での、LEDやカーボンオフセット・カーペットの採用が定着し、設計段階から環境配慮に取組み、実績を残すことができました。また、特殊セラミック塗料「GAINA」など新しい環境配慮商品の施工・販売にも着手し、実績の拡大を図ります。



5. 環境方針の徹底と環境活動の拡大

各サイトでエコ事業所認定を取得・更新し、地域の自治体と密着した環境活動を進めてきました。
2013年度は、各地で協力会社を含めた環境活動説明会や防災訓練など環境イベントへの積極的な参加を行い、教育面では「廃棄物管理者教育」や環境関連商品の社内展示会開催など、社員や取引先への環境教育活動を各サイトで推進しました。
環境活動の輪は、これからも色々な機会を通じて社員とその家族、取引先にも広めています。



高島屋スペースクリエイツ株式会社

<http://www.ts-create.jp>